



ブルキナファソ国

コモエ県における住民参加型持続的森林管理計画（2007-2012）

LETTRE D'AMOUR DES FORETS DE LA COMOE

☛ コモエの森からの恋文

ニューズレター Vol.8 2010年6月



Photo USUI Yukichi

中間評価調査を終えて—今後への期待

国際協力機構（JICA）ブルキナファソ事務所 碓井 祐吉



➤ のプロジェクトが目指している持続的森林管理の担い手は、GGF（森林管理住民組織）のメンバーである指定林周辺の村人たちである。私が出張で村に行く時、村人たちは毎回、自分たちが持っている中で恐らく一番きれいな服を着て笑顔で迎えてくれる。一人ひとり握手をして挨拶し、ミレットのジュースを差し出して、こちらが申し訳ないと思うくらい親切なもてなしを受ける。しかし、都市部でよく見かける恰幅のいいブルキナファソ人を、村では殆ど見かけないことに気がつく。体は小さくて痩せている人が多いし、栄養不良と思われる子供もいる。村での人々の生活には、私が容易には知り得ない困難さが沢山あるのだろう。

森林資源の活用を通じて、彼らの生活をいかに改善させていくか。これが、1月に行われた中間評価調査の時に行われた議論の中で最も大きなポイントの一つになった。環境省側は、協議の中で、「GGFの住民の生活向上と自立に直結する支援をしなくてはならない。プロジェクトでは多くの研修を実施しているが、より直接的な支援として村の人たちにより多くの資機材を追加供与したほうがよい。」と主張した。これに対して日本側の団長は、「活動の持続性を考えると安易に資機材供与を増やすべきではない。

機材供与はかえって村人の自助努力を阻害することにもなり兼ねない。」と回答し、議論は平行線になった。大変な議論だったが、今から振り返ってみれば、プロジェクトのアプローチに関する重要な議論だったのではないと思う。

この中間評価の時の議論で私が強く感じたのは、プロジェクトの現場での取り組みや今後のビジョンを、もっと前向きにアピールしていく必要があるということだった。プロジェクトでは、これまでGGFに対して研修を行った結果、質の高いシアバターやスバラを生産出来るようになり、少しずつではあるがGGFの収入向上に貢献し始めている。また、薬用植物の採取、育成に関する研修を行った結果、幾つかのGGFではダクヨ博士が経営する地元天然医薬品を中心とする製薬会社「ラボラトワール・フィットフラ」に薬用植物の供給を行うようになり、既に重要な収入源となっている。今年3月に日本大使館の草の根・人間の安全保障無償資金協力の支援を受けて建設、開所したラキ



ラキエタ研修センターのシアバター石鹸

エタ研修センターでは、GGFで生産した良質のシアバターを原料とした石鹸の製造に取り組み

始めた。ここで製造されている、食べてもいいと思われるほどきれいで質の良いシアバター石鹸は、元JOCVの森重裕子さんが経営する株式会社「ア・ダンセ」を通じて日本でも販売される。サバの実（天然の *Saba senegalensis* という木の实）等の林産物を健康食品として加工している、パンフォラを本拠地とする「ボンバテクノ社」も、これから重要なパートナーになってくれるものと期待したい。

これらの関係者・関係機関とのパートナーシップによる林産物の「活用、市場の確保」こそが、プロジェクト終了後もGGFの住民達が自立的・持続的に収入向上をしながら森を守っていくことを実現させるための重要な「鍵」になることは間違いないと思う。

住民の生活向上を通じて持続的森林管理をどのように実現することが出来るか。このプロジェクトは、この課題に答えるための多くの学びをもたらしてくれると思う。



碓井 祐吉 (うすい ゆうきち)
2002年4月にJICA入構
2007年7月からブルキナファソ事務所員
PROGEPAF開始とほぼ同時期にブルキナファソに赴任、環境分野を担当し始めて3年目。

コモエの森の宝物 -非木材林産物の紹介-

第6回 *Zanthoxylum zanthoxyloides* (Rutaceae : ミカン科)

樹木、植物、動物等、森林から得られる木材以外の産物を非木材林産物と呼びます。このコーナーでは、コモエの森の宝物として、非木材林産物を紹介します。

サンショウ。日本では、その若芽（木の芽）が料理の彩りとして使われ、果皮は香辛料として使われていますので、お馴染みの木だと思います。このサンショウと同じ仲間（属）の木が、ブルキナファソのコモエの森にもあります。それが、今回紹介する「*Zanthoxylum zanthoxyloides*」です。「Zantho」とは「黄色」、



「xylum」は「木」の意味ですから、「黄色い木」という学名が与えられています。語源のギリシャ語では“Xantho”と綴るらしいですが、学名ではZantho～と表記されます。この属は分類学の父であるリンネによって、1757年に創設された属です。

木材は、学名の通り、黄褐色をしています。ミカン科ですし、葉を揉むと、柑橘系の芳香が漂います。但し、葉にも棘があるので気をつけて下さい。ブルキナファソでは、コモエ県のような南部・南西部のスーダン・ギニア気候帯の森林に分布しています。

*Z. Zanthoxyloides*の花(上)と花芽(下)。この木の場合、葉の表側には棘がありませんが、葉の裏面と枝には棘がありました。

日本のサンショウの樹高は3m程度ですが、この*Z. zanthoxyloides*は、最大8m位にまで成長するそうです。幹は、もともと棘があった部分が、下の写真のような大きなこぶを作っていますので、すぐに、この木と判別することができるのではないのでしょうか。葉の葉脈に沿っても棘が出ています。



*Zanthoxylum zanthoxyloides*の幹と棘

このサンショウ属は約250種類あり、アフリカには約80種が分布しているとのことです。

チューイングスティックとしての利用

チューイングスティック（かじり棒）というのをご存じでしょうか？食事の後などに、口の中を掃除する木の棒のことです。歯ブラシ代わりに掃除する以外にも、一種の清涼剤、ガム代わり等として好まれます。西アフリカでは、*Z. zanthoxyloides*の他、*Anogeissus leiocarpus*など、様々な木の枝や根が、チューイングスティックとして利用されています。*Z. Zanthoxyloides*は、根の部分が、ぴりりと辛く、歯痛にも効能があり、重宝されており、農村地域における、口腔衛生に一役買っている上、流通も行われています。薬効成分としてはフラボノイド、リグナン、アルカロイド、クマリン等を含んでいます。



村地域における、口腔衛生に一役買っている上、流通も行われています。薬効成分としてはフラボノイド、リグナン、アルカロイド、クマリン等を含んでいます。

抗鎌形赤血球症薬としての期待

チューイングスティック以外では、薬用として内用する場合、根の樹皮を煎じて飲用するのが一般的です。

鎌形赤血球症という病気がアフリカには存在しますが、この治療薬としても利用されているようです。トーゴでは、ある民間企業がこの木の抽出物を解熱鎮痛剤の一種であるパラセタモールに添加し、Drepanostatという商品名で販売、流通しているとのことです。



林床にあった、*Z. Zanthoxyloides*の当年性実生。葉脈まで棘があります。



手島 茂晴 (てしま しげはる)

(社)日本森林技術協会所属

副総括/生計向上担当

信州大学農学部森林科学科卒、鳥取大学大学院農学研究科修了(乾燥地研究センター)。

人と森林の係わりを見つめ続ける専門家。座右の銘は、「我この道を行く この道の他に我を生かす道無し」

計画立案から1年 ～GGFの活動モニタリングワークショップ～

プロジェクトでは昨年、各GGF（森林管理住民組織）を対象に、グループの年間計画を作るワークショップを行いました。そこでは、グループの5年後の将来像を描く事、その実現のために、1年で取り組む活動や目標値を決める事など、全てGGFのメンバー自身が行いました。出来上がった計画内容は「活動が多すぎるのでは？目標値が高いのでは？」と思われる物もありましたが・・・。あれから1年、グループは計画に沿って活動できたのでしょうか？今プロジェクトでは、GGFを対象に、活動のモニタリング・評価ワークショップを行っています。その内容を、ウラテンガ村GGFを例に、ご紹介します。

計画を思い出そう

ワークショップは、参加者が計画の内容を思い出す事から始めます。ウラテンガGGFでは、指定林の定期的な見回り、野火を防ぐ防火帯の設置、苗木生産、植林、シアバター生産、役員会議、ゴマの生産、の合計7つの活動を計画していました。計画はグループのノートに書いてありましたが、リーダーはこれら活動全部の他「シアバターを500kg生産すると決めていた」等、目標値もほぼ暗記していました。



ワークショップの場所はいつもの通り、村の集会スペースです。参加者は、GGFの役員メンバー。1年間の活動を振り返ります。

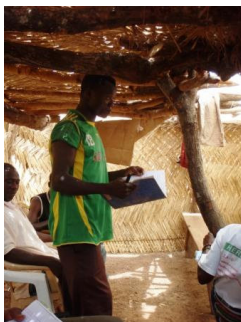
水量を把握できていなかった」「今年は、井戸水のキャパシティを考慮して、目標値を300本に減らしたいと思う」「苗木の水源用に、簡易井戸を掘る事にしよう」。シアバターの生産では、「500kgのバター生産計画に対して220kg生産。昨年シアの実が不作で収穫できなかったのこの量が限界だった」「例年どおり実が収穫できれば500kg生産できる」「購入業者も安定しているし、今年の目標も500kgとしよう」等々。この場で、評価結果を反映して、翌年の計画案まで考えることが出来ました。



計画の評価シート。これも、GGFの書記係が、模造紙に記入しました。

結果は？

次に、活動を実施できたか確認します。すると、7つの活動のうち、指定林の見回り、防火帯、苗木、植林、シアバター、役員会議、の6つの活動は実施していると分かりました。中でも、指定林の見回りは、計画どおり月2回のペースで、防火帯は目標200mの長さを大幅に上回る1.5km以上のものが出来上がっていました。



GGFのホープ、書記係。活動の成果は、書記係が記録しているので、ノートを見て確認。

評価は未来に向けた質問で

そして、それらの成果に対し、参加者自身で評価をします。この時ワークショップのファシリテーターは、予定通り出来た活動の、成功の理由を確認するのは勿論、目標に届かなかった活動も、失敗理由を聞くのではなく「どんな努力をしましたか？今後どうしたいですか？」と、未来に向けた質問を投げかける工夫をします。

するとこんな答えが返ってきました。例えば、苗木生産では「500本計画したが、実際は120本生産。苗木を育てる技術は研修で学んでいたが、井戸の

自分たちの計画だから

計画を作った時は、GGFのメンバーが計画をどれ位達成できるか、未知数でした。しかし、今回のワークショップで、GGFは、自ら作成した計画を、自らの物として扱い、多くを実施していることを確認できました。更にその成果を評価し、それをベースに新たな計画案も提案されました。

Activites	Objectif	Realisation	Commentaire	Etat d'Execution de l'Activite
Surveillance	2 fois par semaine	2 fois		X
Revue de la production	1 fois par semaine	1 fois		A
Production de miel	500kg	220kg		A
Production de beurre	500kg	220kg		A
Reboisement	5 ha	1 ha		X
Champ de Soissons	1 ha	0 ha		X
Travail de nettoyage	1 fois par semaine	1 fois		X
Reunion de la GG	1 fois par semaine	1 fois		X

出来上がった評価シート。

当然かもしれませんが、やはり誰でも、自分で決めた事は、大切に扱い、達成するよう努力もするもの。プロジェクトでは、これからも、何かを「指導する」のではなく、GGFのメンバー自らが考え、決め、それらを実行するための、側面的なお手伝いをしていけたらと思います。



武藤珠生 (むとう たまき)

アイ・シー・ネット所属。

参加型農村開発担当。

聖学院大学政治経済学部卒業、神戸大学国際協力研究科修了。

JOCV、JICA Jr.専門員として、西アフリカで貧困対策や農村開発の仕事に携わり、

現職。現在コモエの森林管理グループの活動モニタリングと同時に、自分自身の業務モニタリングにも忙しい日々。

GGFの心強い味方！プロジェクトサイトで活躍中♪

小林 有人
協力隊員 村落開発普及員

ブナ指定林の保全及び有効活用のために、ブナ指定林周辺村落に設置されたGGF（森林管理住民組織）の活性化に務めています。

ブナ指定林周辺には、3つのGGFが設置されています。協力隊員一年目はその内の一つであるブナGGFと主に活動を行ってきました。二年目である現在は、ブナGGFの活性化に加えて、ラボラ・ナンバルフォGGFの活動がどうしたらメンバーのイニシアティブに基づいて前進するかについて、環境・生活環境省コモエ県局とともに考えを巡らせているところです。

ブナGGFでは、2008年5月からアグチ（食用ネズミ）養殖を行っています。飼育開始から現在まで、飼育担当者が毎日真摯にアグチの世話をされており、彼らは、2009年、92,375 FCFAを売り上げました。その一方で、アグチ養殖設備の補強（オリの追加など）を行う事を目的に、2009年9月、当活動に対して隊員支援経費を活用した支援を行いました。今後もJICAの支援を頼るなどの所謂「援助慣れ」が心配されましたが、以下の理由から、この支援の実行はそうした状態を引き起こさないだろうと判断しました。

- ・私が支援の話をする前に、彼ら自身が自分たちのお金を使って施設の一部を改修したこと（改修費用11,000 FCFA）
- ・支援の際に、設備補強にかかる費用の一部をブナGGFが負担したこと（負担額29,375 FCFA）
- ・「今回が最後の資金的支援で、今後必要が生じた場合はGGFのお金でやりくりをすること」と念を押し、「JICAは、事業開始に必要な、最低限の金額のみを支援する」という話を5回繰り返し、GGFは「わかった」と言っていること

現在はブナGGFが自分たちの活動をきちんと振り返ることができるように、活動毎に年間売上、年間費用、年間利益を、彼らと一緒に計算しています。利益を得るための活動であるにも関わらず彼らは各活動がいくらの利益をあげているのか正確には把握していないのです。読み書き計算が日本人のように達者でない彼らとやっていくのにとっても時間がかかっていますが、根気強く続けてゆきたいです。

一方、ラボラ・ナンバルフォGGFでは、彼らのイニシアティブに基づいて、苗木生産が行われるにはどうしたらいいのかについて、環境・生活環境省コモエ県局と話し合いを行っているところです。

「ネレ、カシュー、カリテの木が村に少なく、これらの苗木を生産して植えたい」という意見がラボラ・ナンバルフォGGFメンバーから出てきたことをきっかけに、当GGFは苗木生産を始めようとしています。私自身苗木生産のスペシャリストではないですが、参考書と見様見真似で学んだことを生かして、村人とともに失敗しながらでも一步一步進んでいきたいと思っています。ネレ、カシュー、カリテが彼らの手で



苗木生産に意欲を見せるラボラ・ナンバルフォGGFの人たち

次の雨季に植えられることを強く願っています。



小林有人(こばやし ありと)
協力隊員。

早稲田大学理工学部卒、同大学院理工学研究科経営システム工学専攻修了。

その後、高校で数学を教えた。現在は、プロジェクトサイトと

同じ地区で、村落開発普及員として奮闘中。派遣期間は2008年9月～2010年9月。



アグチ飼育担当者(掃除中)。檻の中の掃除だけでなく、きちんと小屋の床も掃除をしている。

アグチ。



2009年のアグチ養殖年間利益を計算しているGGF代表

本誌「**コモエの森からの恋文**」に関する皆様のご意見・ご感想をお聞かせ下さい！

お問い合わせ大歓迎！連絡先はこちらです → progepaf@gmail.com

コモエ県における住民参加型持続的森林管理計画

プロジェクト専門家チーム

電話：プロジェクト事務所 +226 20 91 00 88

<http://www.jica.go.jp/project/burkinafaso/0605205/index.html>



社団法人日本森林技術協会
Japan Forest Technology Association

本誌は、プロジェクトの近況や情報を率直に読者に伝えることを目的としており、国際協力機構(JICA)の意見を代表するものではありません。

お断り